

2020年2月23日 礼拝説教要旨
詩編講解説教4 「平和のうちに眠る」
詩編4：2～9、フィリピ4：6～7

今日は第四編が与えられています。3節に「いつまで」とあります。この苦しみがいつまで続くのか。そういうダビデの心境がここに表されています。わたしたちも出口の見えない状況に「いつまで続くのか」ということを考えることがあるかもしれません。それこそ今起こっています新型コロナウイルスの脅威がいつまで続くのか。そういう不安があります。これまでの人生を振り返る中でも、「主よ、いつまでですか」そういう叫びにも似た祈りをするのもしばしばあるのではないのでしょうか。しかし今日のところを読んで気づくことがあります。「平和のうちに身を横たえ、わたしは眠ります」（9節）これは三編にもありました。そういういつまで続くか分からない不安、苦しみの中で詩人はそれでも眠るのです。どうして眠ることができるのか。今日は少しこの眠りを考えてみたいと思います。

現代人というのは、何らかの睡眠の問題を抱えていると言われていています。眠れないという人がいます。眠れないことの一番の原因は、不安や心配事がある。また誰かと関係を悪くなっているとか、あるいは世の中に対する怒りのようなものがあって寝られないということがあるので。今日のところでも「いつまでわたしの名誉を辱めにさらすのか」とあります。誰かに名誉を傷つけられる。プライドを傷つけられる。そういう時にわたしたちは眠れないのです。自分を正当に評価してくれないことに対する怒り、自分が低くみられることに対する怒り。実際ダビデも息子から王座を奪われそうになります。それは王の権威、また親としての権威が軽んじられることです。それはとても辛いことだと思うのです。自分が正当に評価されない。そういう経験はないのでしょうか。

最近、よく聞く言葉に「承認欲求」という言葉があります。つまり自分を認めてほしいという欲求のことです。小さい子どもが親に対して「見てて」と言います。自分がすることを見てほしい。縄跳びでも、でんぐり返しでも、親の前でやって「上手だね」と言ってもらいたい。これが承認欲求です。これはできるだけ満たしてあげる必要があります。よくできた、すごいね、頑張っているね。やはり子どもは親にそう言われたいのです。自分を認めてほしい。でもだんだん大きくなると今度は親の欲求の方が強くなる。やれ成績が悪いとか、どこの大学に入れとか、こういう職業につけとか。それが叶わないと自分は認められていないと考える。そうなる親ではなく、別のところに承認欲求を求め。最近SNSにその承認欲求の場所を求めてくる。よく「いいね」の評価が気になると言います。何人フォロアーがいるとか。わたしもよく知らないのですが、自分の日常を写真に撮って、それをSNSにあげて「いいね」をもらう。そうやって承認欲求を満たそうとしている。それはそれだけ自分の存在を認めてほしいということ。世の中に向かって「見てて」と言っているのです。それがいいか悪いかは別として、自分が評価されていないと感じることは本人にとってはとても辛いことだと思います。それで眠れなくなるほど悩むということが本来あってはならないのです。わたしたちは自分の存在をちゃんと評価してほしい。それは正当な自尊心であり、自分を肯定し、同時に他者の存在を認め、肯定していくために必要なステップなのです。

何より神さまがわたしたちのことをきちんと評価してくださるということを忘れてはいけません。2節「わたしの正しさを認めてくださる神よ」とあります。「正しさを認める」ここには義

認の信仰があります。以前の口語訳はこの2節の訳はとても良い訳です。「わたしの義を助け守られる神よ、わたしが呼ばわる時、お答えください。あなたはわたしが悩んでいた時、わたしをくつろがせてくださいました」神さまがわたしの義を助け、守られる。自分で自分の義を主張し、これを守るのではない。神さまがわたしの義を助けてくださる。そして神さまがわたしを「正しい」「良い」と言ってくださる。これが「義」です。

しかしその後、人間はこの良かった状態から外れてしまいました。それが罪の問題ですが、この人間を再び神さまは回復させ「正しい」状態にしてくださいませ。そこにキリストの救いがあります。「わたしの正しさを認めてくださる神よ」この詩人の祈りはキリストにおいて満たされました。それゆえにわたしたちは安心することができます。くつろぐことができる。9節「平和のうちに身を横たえ、わたしは眠ります」わたしたちはこのキリストの救いのゆえにもはや承認欲求を求めて急ぐ必要はないのです。主が見ていてくださる。そしてキリストのゆえにわたしを正しいと認めてくださるのです。

主イエスが十字架の直前にゲッセマネの園で祈られた話があります。その時に弟子たちが寝てしまった。起きて一緒に祈ってほしいと主に言われていたにもかかわらず眠ってしまう。あの緊迫した状況の時によく眠れると思います。しかしこの眠りはどんな状況でも主が共におられ、祈っていてくださることの安心ではないか。だから眠ることができた。それは今日の第四編でもその眠りの核心に迫るのです。それは主が祈りを聞かれ、そしてわたしを正しいと認めてくださるから。どんなに名誉を傷つけられても、正当に評価されなくても、主がわたしを見ていてくださる。神さまが「良かった」と言ってくださるのです。この信仰ゆえにわたしたちは眠るのです。そうでなければ気が済まないでしょう。名誉毀損で訴えるか、承認欲求を満たすためにSNSに投稿するか。でもそんな必要はありません。

もう40年くらい前のものですが、『笑っている魚』というタイトルの説教集があります。この魚はヨナを飲み込んだ魚のことで、これはペンツァクというドイツの牧師によるヨナ書の説教集です。それにしても『笑っている魚』というタイトルが何ともユニークです。もともとヨナ書自体がユーモアに富んでいるのですが、聖書には魚が笑ったなどとはどこにも書いていません。でもこれを書いたペンツァクはこう述べています。それは知っている者の笑いなのだ。

「すなわち出口のない暗闇の道も、神の愛であり、神の救いの道であることを魚は知っている」あの魚はそれを知って笑いながらヨナを飲み込んだというのです。キリスト者とはそういう存在なのです。わたしたちも知っている。だから笑える。だから眠れる。そういう良い意味での楽観主義。心配事は尽きません。考えれば考えるほど眠れなくなります。でもわたしたちは主に依り頼むことができるのです。「あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう」アーメン。